

図書館史研究会事務局

☎

図書館情報大学 藤野研究室

振替口座

☎

主な内容

- ・ 文献紹介 ..... 川崎 良孝
- ・ 「第7回図書館史を考える名古屋セミナー」開催のご案内
- ・ 事務局より

文 献 紹 介

川崎 良孝 (椋山女学園大学)

1966年に創刊された *Journal of Library History* は、圧倒的にアメリカについての論文が多く、続いてイギリスである。また、フランスについては特集号（これは本『ニュース・レター』第14号で寺田光孝氏が紹介している）もあり、一定数の論文が蓄積されている。一方、ドイツについては論文数が非常に少なく、20年を経過した時点で、せいぜい10編の論文があるにすぎない。筆者はドイツの図書館状況や図書館史にうといが、*Journal of Library History* にあらわれたドイツ公立図書館史についての二つの論文を紹介する。ドイツ公立図書館史研究は、この二つの論文が扱う時代に関心を集中させているようである。

- ① Collins, Donald E. and Rothfeder, Herbert P. "The Einsatzstab Reichsleiter Rosenberg and the Looting of Jewish and Masonic Libraries during World War II," 18(1), 1983, p.21-36.

著者 Collinsは、East Carolina University図書館学部の準教授である。図書館学の修士号と共に、University of Georgia から歴史学の博士号も獲得している。特に第二次大戦時の図書館史に関心をもつ。Rothfeder も同じ大学の歴史学の準教授で、ナチ時代の経済史と文化史を研究している。

ナチ党の理論的指導者の一人で、Nuremberg 裁判で死刑判決を受けて執行され

た Alfred Rosenberg を扱い、第二次大戦時のユダヤ人とフリーメーソンの図書館の没収の実態、および没収の思想的根拠を明らかにしている。ヒットラーの意を受けて、Rosenberg は「ナチ党などの全教育事業の統一化」に乗り出す。これには、高等教育機関の設立や再編、教師への洗脳、専門的研究（ユダヤ問題、共産主義、人種研究など）を含み、一環としての図書館の整備がある。

この中でRosenberg が最も重視したのが、ユダヤ問題の研究である。いわゆるユダヤ問題は19世紀中頃からドイツ知識人の中で重視されており、ユダヤ人はドイツのみならず世界の敵と認識され、その証明に精力を費やしていた。1940年1月29日、ヒットラーはRosenberg にユダヤ問題の研究の開始と図書館設立を認めた。それ以前、ユダヤ問題の資料はある程度ドイツに存在したが、ドイツ全域に散在していた。Rosenberg は、ユダヤ問題の一大研究所兼図書館を設立し、研究を進めようとした。そして、ナチの観点からみたユダヤ問題の徹底的な研究を試みたのである。しかし、当初数箇月は、たいした進展はなかった。転機は1940年5月のフランスの降伏である。ドイツの国敵とされるユダヤ人やフリーメーソンは、ナチのフランス占拠と共に、あらゆるものを残して逃亡した。蔵書、文書など、規模や所有形態を問わず残していったのである。フランスの占拠とともに、ヨーロッパで最も重要なフリーメーソンの支部 Grand Orient が放棄されたり、ユダヤ人の諸団体の施設が放棄されたりした。また、一方では、ユダヤ人の諸施設が崩壊したりした。さらに、莫大な美術品や文化財が各市町、城、個人の家庭などにあった。

こうした状況にあって、Rosenberg は私的な図書館や文庫の没収をヒットラーに求め、ヒットラーはこれを許可した。Rosenberg は、そのための機関として1940年の6月末から7月上旬の間に、Einsatzstab Reichsleiter Rosenberg (Special Staff of Reichsleiter Rosenberg) を組織した。この組織の仕事は、ヨーロッパの占領地域で放棄されたり没収されたユダヤ人やフリーメーソンの研究資料を識別し、収集し、組織化し、そしてドイツのフランクフルト（ここにユダヤ問題研究の本拠がある）に輸送することにあった。そのために、ベルリンの本拠を構え、占領地に支局、支部を設置し、さらに軍の協力も獲得した。1943年の報告によると、フランスからのユダヤ人、フリーメーソン関係資料の没収は、Alliance Israelite Universel (4万冊)、Ecole Rabbinique (1万冊)、Lipschuetz Bookstore, Paris (3万冊)、Rothschild family, Paris (2万8千冊) などを中心としている。その他、オランダ、ノルウェー、デンマーク、スペイン、それに東部占領地などでの、没収の状況を示している。しかし、これらの没収図書は、必ずしも円滑にドイツに運ばれた訳ではなく、またユダヤ人が身を置いて貴重

書を隠したりしたことも多かったという。また、西部占領地と東部では没収についての取り組みが相違していたという（東部では略奪的な面もあった。また、重要でない図書はパルプにした。さらに、軍と非常に密接な協力をした）。

著者は以下の言で締め括っているが、これには反発する読者も多いだろう。

「結論的に言えば、ユダヤ人やフリーメーソンの蔵書は、Alfred Rosenbergの活動で利益をえた。Rosenbergの努力で、図書や研究資料が破壊から救われたのである。Rosenbergは、ドイツの歴史的な課題『ユダヤ問題』の解決を、絶滅ではなく学術で解決しようとした。…… Rosenbergの努力がなければ、多くの資料や物品は永久に消滅したであろう」。

② Steig, Margaret F. "The Richtungstreit: The Philosophy of Public Librarianship in Germany before 1933" 21(2), 1986, p.261-276.

著者 Steigは、アラバマ大学の図書館学教授である。この論文は路線論争を簡潔にまとめている。思想面については、段落ごとのまとめを示す。

① 現代のパブリック・ライブラリーは1890年代の読書室運動を起源とし、アメリカの影響を受けている。② しかし、この運動は思想的、実践的に混沌としており批判が生じる。いわゆる、旧路線 (Alte Richtung)と新旧路線 (Neue )の激しい理論的な対立となる。③ その起点は、Dresden-Plauenの館長 Walter Hofmann が、1912年にPaul Ladewigの *Politik der Bucherei* を批判したことにある。Hofmann の批判は再批判をよび、論争はナチの台頭で終結する。④ 旧路線支持者は、Stettin パブリック・ライブラリー館長のErwin Ackerknecht, Essenの館長Eugen Sulz, Ladewig, 読書室運動の創始者の一人Constantin Norrenbergである。新路線はHofmann で代表される。⑤ 旧路線は英米をパブリック・ライブラリーの模範とし、実践的で非体系的な論理をもつ。一方、新路線はドイツ・ロマンティシズムの影響を受けている。⑥ 両路線の本質的相違はパブリック・ライブラリーの目的にある。目的の相違は、文化、教育の定義の相違、さらには人間性の理解の相違が根底にある。⑦ Norrenberg は、パブリック・ライブラリーの主たる役割は教育にあり、公立学校の延長と考えている。⑧ 具体的には、図書館は無料で、全階級に開かれ、利用者を第一義に考え、それに応じた運営をすべきである。さまざまな政治的見解も、蔵書の中に反映されねばならないと考える。⑨ パブリック・ライブラリーの役割についてのこの考えは、19世紀末の産業化や都市化に関連している。⑩ Norrenberg の思想は、新旧両路線の出発点

になる。広く見た場合、両路線ともパブリック・ライブラリーの目的を教育においている。しかし、教育についての考えは、両路線で相違する。Hofmann は教育の「結果」を重視し、旧路線は教育の「過程」に注目した。⑪ 旧路線にとって、教育の目的は個人が十全な人間性を達成することにある。要するに、教育は、知性と精神の調和的な発展的關係にある。⑫ 表面的には Hofmann も⑪と変わらないが、「教育は図書館員が仲介者として活動するときだけに生じる」という時、旧路線との相違が明確になる。教育とは自己実現の過程ではなく生産物（結果）であり、それも変化の余地がない生産物なのである。⑬ この相違は、根本的には人間観に由来する。Hofmann は、個人単位の読書指導を重視したが、旧路線の個人主義とリベラリズムには激しく対立した。⑭ この面は政治面をみると明確になる。両路線とも図書館は政治的役割を担うこと、国の統一を強める役割をもつことに同意していた。しかし、国についての認識が両路線では異なっていた。新路線では Volk という概念を、統合化の概念としたが、この観点は、旧路線には全くない。⑮ Volkish 思想はドイツ特有のもので、Fichte や Herder に起源をもつ。これは、ドイツ文化の卓越性、ドイツ民族の優越性を示す概念で、政治思想に大きな影響を与えている。⑯ Hofmann の理想は、階級のない “Volk community” という概念によって表明される社会的、精神的な統一にあった。⑰ Hofmann の Volkish 思想に密接に関係するのは、文化についての見方である。ドイツ文化の卓越性とその擁護、およびその伝承に、図書館は役立たねばならない。⑱ Hofmann は、文化はただ一つの形態（ドイツ文化）を認めただけであったが、旧路線では文化の相対性を重視した。⑲ 図書館は「すべての人 (all)」に奉仕するとの考えを両路線とももっていた。しかし、“all” の内容は相違する。Hofmann は、利用する意志がある人びとを重視した。⑳ 旧路線は、利用する意志がある人だけを対象とすることは、エリート的だと批判的であった。

続いて Steig は実践面での相違に移っていく。論争は、図書選択、読書指導、貸出方針などで生じている。一方、管理、運営、図書館員の資格、などでは相違はなかった。図書選択では、新路線は保守的で、旧路線は選択の幅が大きかった。新路線は、ドイツ人の著作をもっぱら重視した。また、文化は図書に現れていると認識し、図書以外のメディアの導入には否定的であった。貸出方針などでは、Hofmann は、開架制度、機械的な貸出を否定し、目録さえも問題視した。これは対個人ベースのサービスを重視したためである。また、Hofmann にとっては、貸出冊数の多さは、対個人ベースのサービスが出来ていないことを示し、決して良いことではなかった。もちろん、図書館論の体系化という観点からみた場合、新路線の方が体系的であり、旧路線は新路線を各論的、実際の議論で対応するだけ

であった。要するに、旧路線は何ら体系的な図書館論を打ち出せなかった。

私見によると、この Hofmann の考えは、容易にナチの図書館論につながっていくようであり、それだけに路線論争は興味深い。

(元年 5 月 20 日)

※ 追記： 上記論文が必要な会員は、下記までご連絡下さい。

川崎良孝

### 「第 7 回図書館史を考える名古屋セミナー」

#### 開 催 の 一 ご 案 内

標記セミナーを下記のように名古屋市内で開催いたします。今回は「図書館史研究の方法論」をテーマに一緒に考え、語り合う機会をもつことにしました。皆様のご参加をお待ちいたしております。

#### 記

1. 日 時 ----- 平成元年 8 月 30 日 (水) 午後 1 時から  
同 8 月 31 日 (木) 午前 12 時まで
2. 場 所 ----- 名古屋観光会館  
(名古屋市中区栄 2 丁目 12 番 31 号  
Tel (052) 231-6396 地下鉄「伏見」駅下車  
徒歩 5 分)
3. 定 員 ----- 40 名 (まだ余裕があります)
4. 参加費 ----- 2,000 円

\* 8 月 30 日、同会館にて夕食をかねて懇親会を予定しております。希望者のみを対象とし、会費は 1 人 6,000 円 (会席) です。当日のお申し込みはご遠慮願います。

\* また、和室の相部屋ですが、宿泊も可能です。女性の方には、少数ですが部屋を用意できます。  
| 泊朝食付 | 人約 6,000 円

## 5. 日程

### ◇ 第1日(8月30日) ◇

PM 1:00 - 1:15 受付

1:15 - 1:30 開会・挨拶

1:30 - 5:00 発表・質疑・討議

(1) 国立図書館史 石山 洋氏(国立国会図書館)

(2) 公共図書館史 石井 敦氏(東洋大学)

(3) 専門図書館史 石井敬三氏(大阪府立中之島図書館)

PM 5:30 - 懇親会

### ◇ 第2日(8月31日) ◇

AM 9:00 - 11:00 発表・質疑・討議

(4) 人物研究 天満隆之輔氏(羽衣学園女子短大)

(2) 図書館史理論 岡谷 大氏(東京農工大図書館)

11:00 - 12:00 まとめ・閉会

6. 申し込み ----- 参加希望者は「はがき」に氏名・住所・電話番号・所属を明記の上、お申し込みください。その際、①懇親会参加の有無、②同会館での宿泊希望の有無も必ずお書き添えください。

\* 申込締切 **7月29日(土)必着** (セミナー当日のお申込みはご遠慮願います)

‡ 申込先

7. その他 ----- 今後、本セミナーに関するご案内等は、参加申込の方のみにさせていただきます。ご了承ください。

平成元年7月

名古屋セミナー研究委員会 委員長 光 齋 重 治

(中部大学三浦記念図書館)

委員 校 條 善 夫

(東海女子大学文学部)

委員 加 藤 三 郎

(名古屋市鶴舞中央図書館)

## 事務局より

### 1. 「第7回図書館史を考える名古屋セミナー」について

ご連絡が遅れ、会員の皆様にご迷惑をおかけ致しました。申し訳ありません。地元委員会の委員の方々のご努力により、本ニューズレター掲載のとおりプログラムが決まりましたので、是非ご参加願います。

### 2. 新入会員のお知らせ

下記の2名の方が本会に入会されました。

### 3. 会員消息

### 4. 会費納入のお願い

会費納入の状況がよくありません。本年度、過年度の会費未納の先生方に対し、注意を喚起する意味からあらためてお知らせすることにしました。

その旨記載の別紙が同封されているときには、お手数ですが最寄りの郵便局からお振り込み願います。口座番号は下記の通りです。

振替口座

### 5. その他

会員各位におかれ、異動、転居等がございましたら事務局宛ご連絡願います。会員消息についても、ニューズレターに掲載したいと思います。

また、本会ニューズレターの紙面は会員に開放されています。研究上お気付きの点、ご意見その他、何なりと事務局にお寄せください。